

各教科等における「見方や考え方」について (たたき台案)

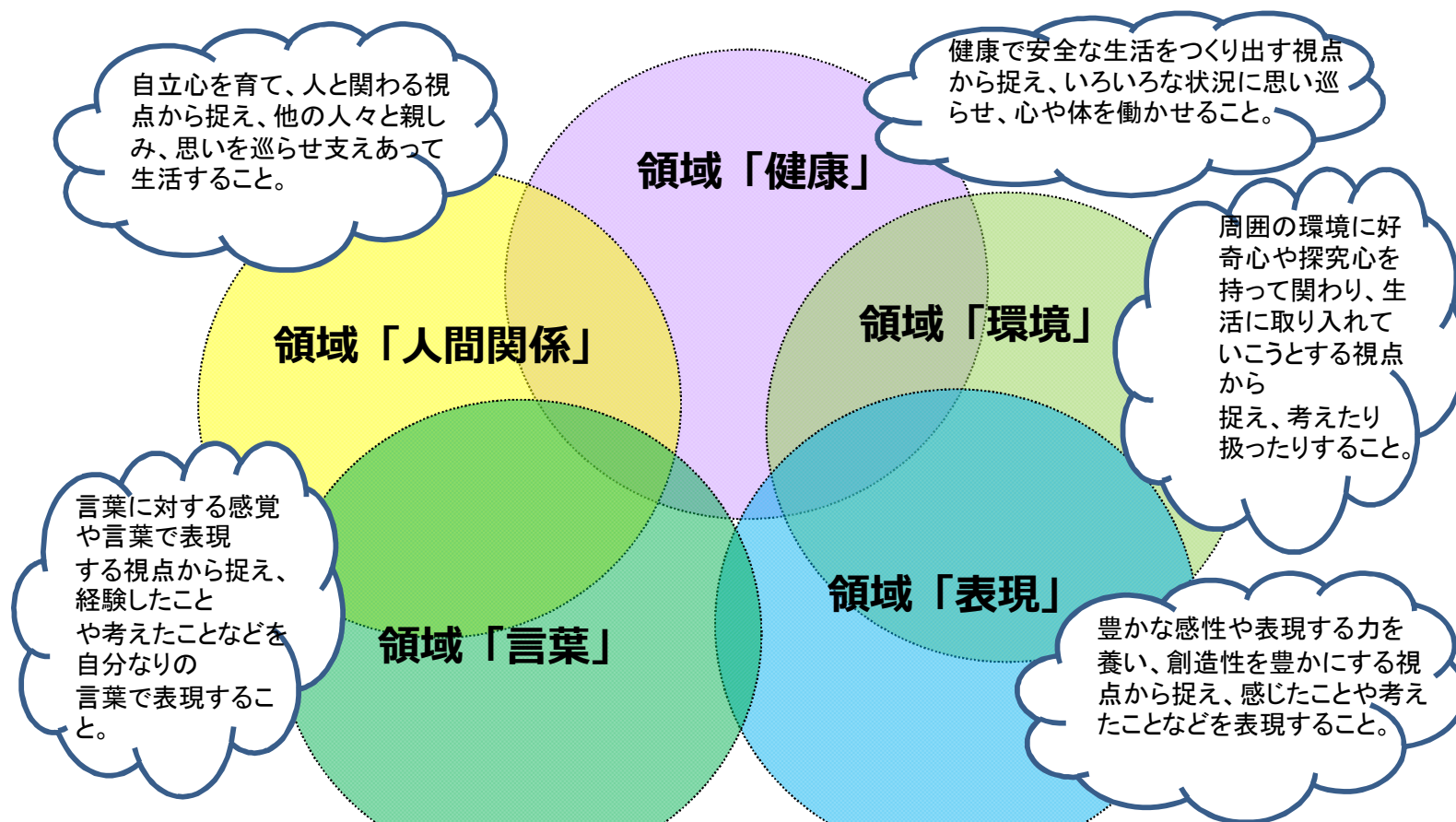
○ 幼児教育	2
○ 国語	3
○ 外国語	4
○ 社会、地理歴史、公民	5
○ 算数、数学	9
○ 理科	10
○ 家庭科、技術家庭科(家庭分野)	12
○ 技術家庭科(技術分野)	13
○ 情報科	14
○ 体育・保健体育	15
○ 生活科	16
○ 総合的な学習の時間	17

幼児教育における「見方や考え方」の整理イメージ（たたき台）

各教科・領域等の特質に応じた「見方や考え方」

総合的な「見方や考え方」の育成

幼児期においては子供の発達の特質を踏まえ、身の回りの様々な事象を各領域の観点から個別的に捉えるのではなく、各領域の視点を併せ持つ、総合的な見方や考え方で事象を捉えることを目指している。便宜的に各領域の見方や考え方を示すと以下のとおりとなる。



※幼児教育の特質に応じた総合的な「見方や考え方」は、体験的理解や言葉などを基盤として育まれる。

遊びや生活を通した総合的な指導

幼児一人一人の特性に応じ、
発達の課題に即した指導

意図的・計画的な
人的・物的な環境の構成

幼児教育

小学校
以上

（総則・評価特別部会資料より抜粋）

○「見方や考え方」とは、様々な事象等を捉える各教科等ならではの視点や、各教科等ならではの思考の枠組みであると考えられる。こうした「見方や考え方」と育成すべき資質・能力の関係について、以下のような整理ができるのではないかな。

・「見方や考え方」は、知識・技能を構造化して身に付けていくために不可欠である。「見方や考え方」を働かせながら、知識・技能を習得したり、知識・技能を活用して探究したりすることにより、知識を他と関連づけて定着させたり、構造化された新たな知識として習得したり、技能を習熟・熟達させたりすることができる。

・「見方や考え方」が成長することにより、思考力・判断力・表現力が豊かなものとなり、より広い領域や複雑な事象をもとに思考・判断・表現できる力として育成されていく。

・学びに向かう力や人間性の育成には、どのような「見方や考え方」を通じて社会や世界にどのように関わるかという点が大きく作用している。

（どのような視点で捉えるか）
言葉の働きを捉えること

言葉で表現されたもの
言葉による表現そのもの

（どのような枠組みで思考するか）

国語で表現し理解すること（創造的・論理的思考の側面、感性・情緒の側面、他者とのコミュニケーションの側面）を通して、自分の思いや考えを形成し深めること＝資質・能力の思考力・判断力・表現力等

【国語科における学び】

国語で表現し理解することを通じて、言葉の働きを捉えるとともに、自分の思いや考えを形成し深めること

小・中・高等学校で一貫した目標(指標形式の目標を含む)の下で、発達段階に応じた「学習プロセス」を経ることによる思考力や判断力の深まり、外国語による表現力の向上、主体的・自律的に学習する態度の育成などを通じ、的確に理解し適切に伝え合うコミュニケーション能力を育成

資質・能力の例

小学校(中学年)

簡単な語句や表現を使って、自分のことや身の回りのことについて、友達に質問したり質問に答えたりするコミュニケーション能力

小学校(高学年)

馴染みのある表現を使って、自分の好きなものや一日の生活などについて、友達に質問したり質問に答えたりするコミュニケーション能力

中学校

○具体的で身近な話題について、学校、地域、他教科等での学習内容等と関連付けながら、互いの考えや気持ちなどを外国語で適切に伝え合う能力
○聞いたり読んだりしたことを活用して話したり書いたりして発信するコミュニケーション能力

高等学校

○日常的な話題から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりするコミュニケーション能力
○聞いたり読んだりしたことを活用して話したり書いたりして発信するコミュニケーション能力

思考力・判断力・表現力、主体的・自律的な態度に基づく、的確に理解し適切に伝え合うコミュニケーション能力の育成

指標形式の目標(「話すこと」の例)

小学校(中学年)

(例)
・自分や身の回りのごく限られたことについて、自分の気持ちなどを伝えようとするようにする。

小学校(高学年)

(例)
・身近で簡単なテーマについて、初歩的な英語で簡単なスピーチをすることができるようにする。

中学校

(例)
・身近な事柄や出来事について、簡単な語句や文を用いて即興で話すことができるようにする。

高等学校

(例)
・身近な話題や知識のある話題について、簡単な外国語を用いて情報や意見を交換し合うことができるようにする。

【見方や考え方の例】
言語やその背景にある文化に関心を持ち、外国語を通じて、他者とコミュニケーションを図ろうとする。

・対話的な学び
・深い学び
・主体的な学びへ

目的に応じたコミュニケーションのプロセス

【学習プロセス】

- ①目的の設定・理解
- ②目的に応じた発信までの方向性の決定・言語活動等の見通し
- ③目的達成のための言語活動(技能統合型)
- ④まとめと振り返り

次の活動へ

※詳細は次ページ参照

「見方や考え方」の成長・発展

概念的な知識の獲得

思考力・判断力・表現力の育成

情意・態度の育成

「社会的な見方や考え方と思考力、判断力、表現力等」イメージ（たたき台）

平成28年4月22日
教育課程部会社会・地理歴史・公民
ワーキンググループ 資料12

社会との関わりを意識した課題解決的な学習の充実

※「社会的な見方や考え方」は、
小・中・高等学校の各「見方や
考え方」を総称する呼称である。

思考力、判断力、表現力等

社会的な見方や考え方をを用いて、社会の在り方や、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を考察する力(①)
社会的な見方や考え方をを用いて、社会に見られる課題を把握して、それらの解決に向けて構想する力(②)
考察したことや構想したことを説明する力、議論する力(③④)

【高等学校】

【中学校】

【小学校】
(第3～6学年)

【小学校】
(第1、2学年)

幼児教育

① 考察する力

・社会の在り方や、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連について、概念等を活用して多面的・多角的に考察できる

② 構想する力

・社会に見られる複雑な課題を把握して、身に付けた判断基準に解決に向けて構想できる

・社会的な見方や考え方の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察できる

・社会に見られる課題を把握して、解決に向けて複数の意見や立場を踏まえ、判断できる

・社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多角的に考察できる

・社会に見られる課題を把握して、解決に向けて社会への関わり方を判断できる

地理歴史科

社会的事象の地理的な見方や考え方
位置や空間的な広がりとの関わりに着目して社会的事象を見出し
地域等の枠組みの中で、環境条件や他地域との結び付き、人間の営みなどと関連付けて

公民科

人間と社会の在り方を捉える見方や考え方
人間と社会の在り方を捉える諸概念に着目して社会的事象等を見出し
それらの事象を選択・判断の基準となる考え方と関連付けて

地理歴史科

社会的事象の歴史的な見方や考え方
推移や変化などに着目して社会的事象を見出し
比較して相違や共通性を明確にして原因と結果を関連付けて

社会科

公民的分野

現代社会を捉える見方や考え方
現代社会を捉える諸概念に着目して社会的事象を見出し
現代の社会生活と関連付けて

地理的分野

社会的事象の地理的な見方や考え方
位置や空間的な広がりとの関わりに着目して社会的事象を見出し
地域等の枠組みの中で、環境条件や他地域との結び付き、人間の営みなどと関連付けて

歴史的分野

社会的事象の歴史的な見方や考え方
推移や変化などに着目して社会的事象を見出し
比較して相違や共通性を明確にして原因と結果を関連付けて

小学校

社会的事象の見方や考え方

・位置や空間的な広がり
・時期や時間の経過
・事象や人々の相互関係に着目して社会的事象を見出し
・事象を比較・分類したり総合したりして(特色)
・国民(人々の)生活と関連付けて(意味)

③ 説明する力

・適切な資料・内容や表現方法を選び、社会的事象についての自分の考えを効果的に説明できる

・意図が明確になるように内容構成を考え、社会的事象についての自分の考えを論理的に説明できる

・根拠や理由を明確にして、社会的事象についての考えを論理的に説明できる

④ 議論する力

・合意形成を視野に入れながら、社会的事象について構想したことを、妥当性や効果、実現可能性などを指標として議論できる

・他者の主張を踏まえたり取り入れたりして、社会的事象についての自分の考えを再構成しながら議論できる

・他者の主張につなげたり、立場や根拠を明確にしたりして、社会的事象についての自分の考えを主張できる

生活科

比較する、分類する、関連付けるなどの思考

思考力、表現力の基礎の育成

伝える、相互交流する、振り返るなどの表現

身近な物や遊具に興味を持って関わり、考えたり、試したりして工夫して遊ぶ

生活に関係の深い情報や施設などに興味や関心を持つ

感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったりなどする

したり、見たり、聞いたり、感じたり、考えたりなどしたことを自分なりに言葉で表現する

社会的な見方や考え方（追究の視点や方法）の例（たたき台）

平成28年4月22日
教育課程部会社会・地理歴史・公民
ワーキンググループ
資料13

※ 社会的な見方や考え方は、小・中・高等学校の各「見方や考え方」を総称する呼称であり、社会の在り方や、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連等を考察する際の「追究の視点や方法」である

		考えられる追究の視点例	追究の視点を生かした、考察や構想に向かう「問い」の例	社会、地理歴史、公民における思考力、判断力	考察、構想した結果、獲得する知識の例
小学校社会		○位置や空間的な広がり 地理的位置、分布、地形、環境、気候、範囲、地域、構成、自然条件、社会的条件、土地利用 など ○時期や時間の経過の視点 時代、起源、由来、背景、変化、発展、継承、維持、向上、計画、持続可能性 など ○事象や人々の相互関係の視点 工夫、努力、願い、業績、働き、つながり、関わり、仕組み、協力、連携、対策・事業、役割、影響、多様性と共生（共に生きる） など	・どのように広がっているのだろう ・なぜこの場所に集まっているのだろう ・地域によって気候はどのように異なるのだろう ・いつどんな理由で始まったのだろう ・どのように変わってきたのだろう ・なぜ変わらずに続いているのだろう ・どのような工夫や努力があるのだろう ・どのようなつながりがあるのだろう ・なぜ〇〇と〇〇の協力が必要なのだろう	◎社会的事象の見方や考え方 位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係、比較・分類したり総合したりして、国民（人々の）生活と関連付けて 追究の方法 社会的事象の特色や意味を多角的に考察する力 社会に見られる課題について、自分たちにできることを選択・判断する力	・組立工場を中心に部品工場が集まり盛んな地域を形成している ・駅の周囲は交通の結節点なので人が多いため商業施設が集まる ・国土の地理的位置や地形、台風などの自然条件によって気候は異なる ・祭りは地域の豊作や人々のまとまりへの願いから始まった ・農作業は機械化により生産効率を向上させてきた ・伝統芸能は技や道具が多くの人々に継承され今に至っている ・地域の安全は、関係機関の未然防止と緊急対処によって守られている ・食料生産は私たちの食生活を支える役割を果たしている ・政治には国民生活の安定と向上を図る働きがある
			・どのように続けていくことがよいのだろう ・共に生きていく上で何が大切なのだろう		・伝統と文化は受け継ぐだけでなく時代に合わせ発展させていく必要がある ・世界の人々と共に生きるには、文化や考え方の違いを認め合い、課題を解決しながら理解し合っていくことが大切である
中学校社会	地理的分野	○位置や分布に関わる視点 絶対的、相対的 規則性・傾向性、地域差 など ○場所に関わる視点 自然的、社会的 など ○人間と自然の相互依存関係に関わる視点 環境依存性、伝統的、改変、保全 など ○空間的相互依存作用に関わる視点 関係性、相互性 など ○地域に関わる視点 一般的共通性、地方的特殊性 など	・それは、どこに位置するだろう ・それは、どのように分布しているだろう ・そこは、どのような場所だろう ・そこでの生活は、まわりの自然環境からどのような影響を受けているだろう ・そこでの生活は、まわりの自然環境にどのような影響を与えているだろう ・そこは、それ以外の場所とどのような関係を持っているだろう ・その地域は、どのような特徴があるだろう ・それは、（どこにある、どのように広げる、どのような場所とする、どのような自然の恩恵を求める、どのように自然に働き掛ける、他の場所とどのような関係を持つ、どのような地域となる）べきなのだろう	◎社会的事象の地理的な見方や考え方 位置や空間的な広がりとの関わりに着目して社会的事象を見出し、地域等の枠組みの中で、環境条件や他地域との結び付き、人間の営みなどと関連付けて 追究の方法 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多面的・多角的に考察する力 地域に見られる課題の解決に向けて、複数の立場や意見を踏まえて選択・判断する力	・地球上の地点は、絶対的、相対的に表現できること （具体例：明石市は大阪市の西にあり、その市立天文科学館は日本標準時子午線上の北緯34度38分、東経135度0分にあります） ・特定の事象は、地球の表面において特定の範囲に広がること （具体例：アマゾン川流域の一年中雨が多く降る地域には、常緑の密林地帯が広がっています） ・地球上の各地は、固有の性格があること （具体例：広島市の沿岸部は、低平な三角州となっています） ・人々の生活は自然の影響を受けるとともに、それを変化させること （具体例：平野の乏しい日本では、その傾斜地を段々畑や棚田にするなどして利用してきました） ・場所は相互に関係を持ち、影響を及ぼし合うこと （具体例：多くの人口を抱えた大消費地東京の周辺では、新鮮な農産物を生産し、都市の住民に届ける近郊農業がさかんです） ・空間的な広がりには、まとまりのある固有の特徴を持つこと （具体例：中国地方の山間部では、人口減少や高齢化の進む過疎化に悩む地域が広がっています） ・地域には、期待されるよりよい姿が求められること （具体例：地震や豪雨、台風など自然災害を受けることの多い日本では、被害を最小限に食い止めるため、各地の自然環境に応じた、災害に強いまちづくりを進めることが大切です）
	歴史的分野	○年代の基本に関わる視点 時期、年代、時代区分 など ○諸事象の推移や変化に関わる視点 変化、発展、時代の転換 など ○諸事象の特色に関わる視点 相連、共通性、時代の特色 など ○事象相互の関連に関わる視点 原因、背景、ねらい、結果、影響、意味、意義 など	・いつ（どこで、誰によって）おこったか ・前の時代とどのように変わったか ・どのような時代だったか ・なぜおこった（何のために行われた）か ・どのような影響を及ぼしたか ・どんな選択が可能だったか（背景） ・なぜそのような判断をしたと考えられるか（ねらい）	◎社会的事象の歴史的な見方や考え方 推移や変化などに着目して社会的事象を見出し、比較して相連や共通性を明確にして、原因と結果を関連付けて 追究の方法 時代の転換の様子や各時代の特色を多面的・多角的に考察する力 歴史に見られる諸課題について、複数の立場や意見を踏まえて選択・判断する力	・今も世界に広まるいくつかの宗教は、数千年前に古代からの文明地域の都市を中心におこった ・南北朝の争乱や戦国の動乱を経て室町幕府の統一的支配が弱まり、大名による領国支配と民衆による自治的結合が進んだ ・近世は、江戸幕府等の強大な力を基盤に安定した全国支配体制が形成され、産業・通商や町人文化が隆盛をみた時代であった ・ヨーロッパの市民革命を経て広まった自由と平等を理想とする社会への変革は、欧米のみならず、次第にアジアの近代化にも影響を及ぼした。 ・東アジアの冷戦の激化は、戦後の日本に対する占領政策や経済復興、国際社会への復帰などに大きな影響を与えた。 ・歴史上の人物の業績や出来事の歴史的な役割を考察する際には、背景となる時代についての様々な視点が大切である。（具体例：天保の改革の評価については諸説あるが、江戸時代の経済や社会の仕組みの変化や諸外国の接近への対応などの時代状況を広くとらえて考えることが大切である。）
中学校社会	公民的分野	○現代社会を捉える視点 対立と合意、効率と公正、個人の尊重、自由、平等、選択、配分、法的安定性、多様性 など ○社会に見られる課題の解決を構想する視点 対立と合意、効率と公正、比較衡量、自由・権利と責任・義務、財源の確保と配分、利便性と安全性、国際協調、持続可能性 など	・私たちにとってきまりとは何だろうか ・なぜ市場経済という仕組みがあるのか、どのような機能があるのか ・民主的な社会生活を営むために、なぜ法に基づく政治が大切なのか ・よりよい決定の仕方とはどのようなものか ・社会保障とその財源の確保の問題をどのように解決していったらいいか ・民主政治を推進するために何が必要か ・世界平和と人類の福祉の増大のためにどのようなことができるか	◎現代社会を捉える見方や考え方 現代社会を捉える諸概念に着目して社会的事象を見出し、それらの事象を現代の社会生活と関連付けて 追究の方法 社会的事象の意味や意義を多面的・多角的に考察する力 現代社会に見られる課題の解決に向けて、複数の立場や意見を踏まえて選択・判断する力	・市場経済において個々人や人々は価格を考慮しつつ、何をどれだけ生産・消費するかを選択すること。また、価格には、何をどれだけ生産・消費するかに関わって、人的・物的資源を効率よく配分する働きがあることなどが、市場経済の基本的な考え方である ・民主的な社会における法は、国民生活の安定と福祉の向上を目指し、国民の意思のあらわれとして国民の代表によって構成される議会によって制定されるものであり、国や地方公共団体は、国民の自由と権利を侵さないようにそうした法の拘束を受けながら政治を行っている ・合意の妥当性を判断する際に、無駄を省く「効率」と決定の手続きや内容についての「公正」が必要である ・財政に関して、少子高齢社会など現代社会の特色を踏まえ、財源の確保と望ましい配分について対立と合意、効率と公正などの視点から多面的・多角的に考察・判断することが大切である ・地球環境、資源・エネルギー、貧困などの課題に対しては、経済的、技術的な協力などが大切である

社会的な見方や考え方（追究の視点や方法）の例（たたき台）

考えられる追究の視点例		追究の視点を生かした、考察や構想に向かう「問い」の例	社会、地理歴史、公民における思考力、判断力	考察、構想した結果、獲得する知識の例
地理総合(仮称)	○位置や分布に関わる視点 時間距離、時差 等質(均質、同質)、類似　など ○場所に関わる視点 共通性、多様性　など ○人間と自然の相互依存関係に関わる視点 限界性、防災・減災　など ○空間的相互依存作用に関わる視点 移動性、圏構造(都市圏…), グローバル化　など ○地域に関わる視点 規模、格差、変容、持続可能性　など	・それは、なぜそこに位置するだろう ・それは、なぜそのように分布しているだろう ・そこは、なぜそのような場所になったのだろう ・そこでの生活は、まわりの自然環境からなぜそのような影響を受けているのだろう ・そこでの生活は、まわりの自然環境になぜそのような影響を与えているのだろう ・そこは、それ以外の場所となぜそのような関係を持っているだろう ・その地域はなぜそのような特徴があるのだろう	◎社会的事象の地理的な見方や考え方 ・位置や空間的な広がりとの関わりに着目して社会的事象を見出し ・地域等の枠組みの中で、環境条件や他地域との結び付き、人間の営みなどと関連付けて ↓ 追究の方法 考察 地理に関わる諸事象を地域という枠組みの中で考察する力 構想 そこで生起する課題を解決に向けて構想(選択・判断)する力	・地球上の地点は、絶対的、相対的に表現できること (具体例:日付変更線は基本的に180度の経線に沿うが、国内の時差を回避するなどの理由で何かも折れ曲がっている) ・地球上の各地は、多様な特徴を持つこと (具体例:東南アジアの高温多湿な地域では通気性を高めるため、シベリアの凍土地帯では住宅内の熱を逃がすため、いずれも高床式住居が建設されている) ・人々の生活は自然の影響を受けるとともに、それを変化させること (具体例:サハラ砂漠の南に広がるサヘル地域では、過度な放牧や農耕、薪の採取などにより砂漠化が進んだ) ・場所は相互に関係を持ち、影響を及ぼし合うこと (具体例:飢饉に苦む発展途上国への食料援助には、人道的な側面とともに政治的混乱や周辺諸国への難民流入を防ぐといった影響も考えられる。) ・空間的な広がりには、固有の性格を持ち、変容すること (具体例:発展途上国には、政治や経済、文化、情報などの機能が首都に一極集中し、地域格差が拡大している国がある)
	○位置や分布に関わる視点 経済距離、中心性 単一指標、複数指標、総合(指標)　など ○場所に関わる視点 立地、景観、民族性　など ○人間と自然の相互依存関係に関わる視点 環境可能論、環境決定論　など ○空間的相互依存作用に関わる視点 中枢管理機能、階層性　など ○地域に関わる視点 構造、分化　など	・それが、そこに位置する意味(意義、役割、影響)は何だろう ・それが、そのように分布する意味は何だろう ・そこが、そのような場所である意味は何だろう ・そこでの生活が、まわりの自然環境からそのような影響を受けているのはどういう意味があるのだろう ・そこでの生活が、まわりの自然環境にそのような影響を与えているのはどういう意味があるのだろう ・そこが、それ以外の場所とそのような関係を持っている意味は何だろう ・その地域がそのような特徴があるのはどういう意味があるのだろう	◎社会的事象の地理的な見方や考え方 ・位置や空間的な広がりとの関わりに着目して社会的事象を見出し ・地域等の枠組みの中で、環境条件や他地域との結び付き、人間の営みなどと関連付けて ↓ 追究の方法 考察 地理に関わる諸事象を系統地理的あるいは地誌的に考察する力 構想 そこで生起する課題を解決に向けて構想(選択・判断)する力	・特定の事象は、地球の表面において特定の範囲に広がること (具体例:メキシコはNAFTAに加盟しながらも文化的にはラテンアメリカに属し、南北アメリカ諸国を経済的、文化的に結ぶ回廊となっている) ・地球上の各地は、多様な特徴を持つこと (具体例:大都市の都心では、行政機関や大企業の本社等が集まり、政治や経済の中枢管理機能が集積している) ・人々の生活は自然の影響を受けるとともに、それを変化させること (具体例:東南アジアの沖積平野では、モンスーン等の自然条件を生かした集約的な稲作農業が発達し、世界有数の米作地帯となっている) ・場所は相互に関係を持ち、影響を及ぼし合うこと (具体例:都市が拡大していく過程では、社会資本整備の遅れから、住宅や工場の無秩序な展開を招くことがある) ・空間的な広がりには、固有の性格を持ち、変容すること (具体例:シンガポールで複数の言語が公用語となっているのは、複雑な民族間の軋轢を軽減し、多文化主義を推進しようとする役割がある)
高等学校地理歴史	○年代の基本に関わる視点 時期、年代、時代　など ○諸事象の推移や変化に関わる視点 変化、継続、転換　など ○諸事象の特色に関わる視点 相連、共通性　など ○事象相互の関連に関わる視点 原因、背景、ねらい、結果、影響、意味、意義　など	・いつ(どこで、誰によって)おこったか ・何が、なぜ、どのように転換したか ・何が受け継がれたのか ・何が変わったのか ・なぜおこった(何のために行われた)か ・それらは、どのような関係があるか ・どのような影響を及ぼしたか ・どんな意味や意義、特色があるのか ・どんな新たな変化をもたらしたか ・何が課題として残されたか	◎社会的事象の歴史的な見方や考え方 ・推移や変化などに着目して社会的事象を見出し ・比較して相連や共通性を明確にして ・原因と結果を関連付けて ↓ 追究の方法 考察 現代的な諸課題の歴史的背景を多面的・多角的に考察する力 構想 歴史に見られる諸課題について、複数の立場や意見を踏まえて構想(選択・判断)する力	・16世紀には、諸大陸を結びつける国際商業が活性化し、アジアの諸帝国が繁栄した。豊かな富を求めてアジアに進出した西欧との交流も盛んに行われた ・19世紀の欧米や日本は、工業化や政治変動の過程を経て、新たな国家のしくみを生み出し、世界と日本のつながりが一層深まった ・19世紀のヨーロッパ諸国の進出に対して、日本やアジア諸国においては様々な対応策が生まれ、ナショナリズムが形成された ・20世紀には、科学技術やマスメディアが発達し、人・モノ・情報の移動が加速化し、大衆の政治や経済、文化活動への参加が拡大した ・市場経済の進展とともに、国内外で貧富の格差をめぐる問題が顕著となり、富の再分配をめぐる動きが起こる一方、国際社会では支配と従属関係が深まった ・大戦時における総力戦体制の構築は、戦後の国家と国民、国際秩序の在り方に新たな変化を生み出した ・経済開発と環境保全をめぐる問題は、豊かな生活の在り方や人間の生き方を再考させた
世界史に関する探究科目(仮称)	○年代の基本に関わる視点 時期、年代、時代　など ○諸事象の推移や変化に関わる視点 変化、継続、転換　など ○諸事象の特色に関わる視点 相連、共通性、多様性、複合性、相互依存性、多元性　など ○事象相互の関連に関わる視点 原因、背景、ねらい、結果、影響、意味、意義　など	・いつ(どこで、誰によって)おこったか ・何が、なぜ、どのように転換したか ・何が受け継がれたのか ・何が変わったのか ・なぜおこった(何のために行われた)か ・それらは、どのような関係があるか ・どのような影響を及ぼしたか ・どんな意味や意義、特色があるのか ・どんな新たな変化をもたらしたか ・何が課題として残されたか	◎社会的事象の歴史的な見方や考え方 ・推移や変化などに着目して社会的事象を見出し ・比較して相連や共通性を明確にして ・原因と結果を関連付けて ↓ 追究の方法 考察 諸地域世界の多様性や複合性、相互依存性や多元性を、歴史的観点から、多面的・多角的に考察する力 構想 歴史に見られる諸課題について、複数の立場や意見を踏まえて構想(選択・判断)する力	・人類は、世界各地の自然環境に適応し、農耕や牧畜を基礎とした諸文明を形成し、やがて諸地域ごとのまとまりを生み出した ・ユーラシアの海・陸のネットワークを背景に、諸地域世界の交流が活発化し、新たな地域世界の形成や再編が進んだ ・アジアの繁栄や西洋諸国の拡大を背景に、諸地域世界の結合が進み、西洋諸国の工業化は世界の構造的なつながりを生み出した ・科学技術の発達や生産力の発展は、地球規模での世界の一体化を加速化させ、世界の相互依存関係を一層深めさせた ・19世紀後期から20世紀初期にかけておこった産業構造の変化は、帝国主義政策を生み出し、軍事力に基づく世界分割が進んだ ・冷戦の終結後の国際経済の連携の動きは、新たな地域統合をもたらし、新たな国際秩序を模索する動きが生まれた
	・あなたは、どんな選択をするか ・あなたは、どう判断するか ・あなたは何を求めるか	・他にどんな選択が可能だったか ・なぜそのような判断をしたと考えられるか ・あなたは何を求めるか		歴史的な見方や考え方、獲得した知識(概念)を活用して、諸資料に基づいて、複数の立場や意見を踏まえて、自分の考えを論理的に説明すること

社会的な見方や考え方（追究の視点や方法）の例（たたき台）

考えられる追究の視点例		追究の視点を生かした、考察や構想に向かう「問い」の例		社会、地理歴史、公民における思考力、判断力		考察、構想した結果、獲得する知識の例	
高等学校地理歴史	日本史に関わる探究科目（仮称）	○年代の基本に関わる視点 時期、年代、時代区分 など ○諸事象の推移や変化に関わる視点 継続、発展、時代の転換 など ○諸事象の特色に関わる視点 相違、共通性、時代性、多様性 地域性、 など ○事象相互の関連に関わる視点 原因、背景、ねらい、結果、 影響、意味、意義 など ○諸事象の位置付けに関わる視点 論理性、客観性、妥当性 など	・いつ（どこで、誰によって）おこったのか ・何が、なぜ、どのように転換したか ・何が、どのように推移したのか ・どのような変化が生じたのか ・どのような背景が存在するか ・どのような時代(時期)だったのか ・なぜおこった(何のために行われた)のか ・どのような関係性が見いだせるのか ・どのような意味や特色があるのか ・どのような影響を及ぼしたのか ・どのような点が現代と関係しているのか ・何が課題として残されたか ・どのような影響を及ぼすと予想できるか ・なぜその判断をしたと考えられるか ・他にどのような選択が可能であったと考えるか ・どのように意義付けができるのか	◎社会的事象の歴史的な見方や考え方 ・推移や変化などに着目して社会的事象を見出し ・比較して相違や共通性を明確にして ・原因と結果を関連付けて 追究の方法 考察 日本の歴史の展開、伝統と文化の特色を多面的・多角的、総合的に考察する力 構想 歴史上の人物の行動や事象の意義について、多様な資料を活用して構想(選択・判断)する力		・遺物や遺跡、様々な歴史資料は、現在の我が国の文化や伝統を考察する上で重要な考察の手がかりとなってきた ・日本の古代国家の形成過程の背景の一つには、東アジア世界の変化が存在する ・中世の社会では、武士勢力や宗教勢力の拡大や、庶民の台頭など権力の多様化が新しい文化や地域的な際を生みだした ・江戸時代初期の経済発展は、町人や富農に文芸の普及や生活文化の上昇をもたらし、文化の担い手を成長させた ・18～19世紀前半の経済・産業の成長は、一方で社会の矛盾を深め、新たな社会構造の構築を促し、明治維新へとつながっていった ・1920年代の経済状況は、人々の政治や社会に対する評価や要求に変化を生み、1930年代の日本の政治状況に大きな影響を与えた ・戦後日本経済の推移は、冷戦の国際状況と密接に関係して展開した ・人物や事象の歴史的な意義の判断に際しては、獲得した知識(概念)を活用し、諸資料に基づいて、複数の立場や意見を踏まえ、自分の考えを論理的に説明できることが大切である	
	高等学校公民	公共（仮称）	○人間と社会の在り方を捉える視点 幸福、正義、公正、個人の尊厳、自由、平等、寛容、委任、希少性、機会費用、利便性と安全性、多様性とアイデンティティ など ○公共的な空間に見られる課題の解決を構想する視点 幸福、正義、公正、協働関係の共時性と通時性、比較衡量、相互承認、適正な手続き、自由・権利と責任・義務、平等、財源の確保と配分、平和、持続可能性 など	・社会を成立させる背景にあるものは何か ・社会に参画し、他者と協働する倫理的主体として個人が判断するための手掛かりとなる考え方は何か ・人間としての在り方生き方について考えていくとはどのようなことか ・よりよい集団、社会の在り方とはどのようなものか ・政治的主体となるとはどのようなことか ・経済的主体となるとはどのようなことか ・公共的な場づくりや安全を旨とした地域の活性化のために、私たちはどのように関わり、持続可能な社会づくりの主体となればよいか	◎人間と社会の在り方を捉える見方や考え方 ・人間と社会の在り方を捉える諸概念に着目して社会的事象を見出し ・それらの事象を選択・判断の基準となる考え方と関連付けて 追究の方法 考察 人間としての在り方生き方、社会的事象の意味や意義を多面的・多角的に考察する力 構想 公共的な空間に見られる課題の解決に向けて、複数の立場や意見を踏まえて、社会を形成する主体として構想(選択・判断)する力		・今まで受け継がれてきた蓄積や先人の取組、知恵などを踏まえ、様々な立場や文化等を背景にして社会が成立している ・「行為の結果として、個人の幸福とともに、社会全体の幸福を重視する考え方」と「(行為の結果よりも、)行為の動機となる人間的責務としての公正などを重視する考え方」があり、両者ともに活用し、自分も他者ともに納得できる解を見出そうと考えていくことが重要である ・「自分らしい生き方」を問い、自らの体験や悩みを振り返ることを通して自らを成長させるとともに、人間は社会的な存在であることを認識し、対話を通じてお互いを高め合うことの両者によってよりよい公共的な空間を作り出していくことが大切である ・選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用するとともに、個人を起点として、自立、協働の観点から多様性を尊重して持続可能な地域づくりに向けた役割を担う主体となることが大切である
倫理（仮称）		○人間としての在り方生き方を捉える視点 善、徳、愛、共感、幸福、義務、個人の尊厳、正義、公正、寛容、存在、真理、聖、美 など ○現代の倫理的諸課題の解決を構想する視点 尊重、畏敬、創造、保全、自由、権利、責任、自立、協働、勤労、多様性、相互承認、平和、国際協調、持続可能性 など	・自らの人生をどう生きればよいか、生きることは何か、人間とは何か ・他者どう生き、社会でどう生きていけばよいか、良識ある公民としていかに在るべきか、いかに生きるべきか ・人間は何を知ることができるのか、なぜ世界が存在するのか、人間はどのような位置づけで存在するのか ・哲学や宗教や芸術が何を問い、どのような答えを見出してきたか ・自然とどのように関わり合って生きればよいか。自然科学で知りうることと倫理学で求めることとの違いはどこにあるか ・グローバル化が進む中で、異文化と共生し多様な文化が共存する国際社会を築くために考えるべきことはどのようなことか	◎人間としての在り方生き方を捉える見方や考え方 ・人間としての在り方生き方を捉える諸概念に着目してそれに関わる事象を見出し ・それらの事象を選択・判断の基準となる考え方や哲学、宗教、芸術などに関わる理論と有機的に関連付けて 追究の方法 考察 人間としての在り方生き方に関わる事象の意味や意義を多面的・多角的に考察する力 構想 現代の倫理的諸課題の解決に向けて、複数の立場や意見を踏まえて選択・判断する力		・それ自体価値あるよいものを求め、正しい行いを選ぶ賢さとそれを実行する意志の強さを身に付けた徳の高い人間を目指し生きる ・自由権の保障とともに不利な立場にある人々への配慮も必要であるという考え方を手がかりとして公平な社会について考え続ける ・存在の不思議への驚きから知識への深い懐疑が生じること、正解が定めがたく問うこと自体に意味がある問いがあり、これを問い考え続けることが大切であることに気付く ・倫理で考えるのは「べき」であるため、自然科学で考える「ある」とは異なるが、観察した事実を根拠として練り上げられた理論を現実の出来事をさらに観察し修正しながら、判断と理論を調整していくことが大切である ・自民族中心主義やオリエンタリズムなどの思考による偏見を自覚し、異文化を尊重していくことが大切である	
高等学校公民	政治・経済（仮称）	○社会を捉える視点 個人の尊厳、効率、公正、自由、平等、委任、希少性、機会費用、選択、配分、分業、交換、利便性と安全性、多様性とアイデンティティ など ○社会に見られる課題の解決を構想する視点 対立、協調、効率、公正、比較衡量、具体的な妥当性と法的安定性、相互承認、適正な手続き、自由・権利と責任・義務、財源の確保と配分、平和、持続可能性 など	・政治の意義と機能はどのようなものであるか ・経済活動の意義はどのようなものであるか ・望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方とはどのようなものか ・グローバル化が進む国際経済にあって、日本経済は今度どのようにあることが望ましいと考えるか ・地域社会の発展と住民生活の向上のために、国と地方公共団体の関係の在り方や私たちの関わり方について、どのような選択・判断、合意形成を行うか	◎社会を捉える見方や考え方 ・社会の在り方や課題を捉える諸概念に着目して社会的事象を見出し ・それらの事象を選択・判断の基準となる考え方や政治、法、経済などに関わる理論と有機的に関連付けて 追究の方法 考察 社会的事象の意味や意義を多面的・多角的に考察する力 構想 社会に見られる課題の解決に向けて、複数の立場や意見を踏まえて構想(選択・判断)、合意形成する力		・政治とは広義には、個人あるいは集団の考え方や意見、利害の対立や衝突を調整したり解決したりすることにより、社会の秩序を維持し統合を図る機能を意味している ・経済活動は分業と交換に基づき人間生活の維持・向上のために行われるものであり、いずれの社会でも、「何をどれだけ」、「どのような方法で」、「誰のために」生産すべきか、生産された財やサービスをどのように社会の構成員に分配し、いかに消費するかという経済的選択の問題を解決しなければならないものである ・望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方を考察、追究する際には、現代政治における個人、政党及び圧力団体の行動、住民運動など現実社会の事象を取り上げ、客観的な資料を基に様々な角度から主体的に考察することが必要である ・個人の尊厳、基本的人権の尊重を基盤に、理論と現実との相互関連に留意しながら持続可能な地域社会となる在り方を考察、追究することが大切である	

8

事象を数理的に捉え、数学的に表現し処理するとともに、論理的に考え、統合的・発展的に考察する。

高等学校 数学	事象を数理的に捉え、数学的に表現し処理するとともに、論理的に考え、統合的・発展的、体系的に考察する。
中学校 数学	事象を数理的に捉え、数学的に表現し処理するとともに、論理的に考え、統合的・発展的に考察する。
小学校 算数	事象を数理的に捉え、数学的に表現し処理するとともに、帰納的・類推的・演繹的に考え、統合的・発展的に考察する。

理科の各領域における特徴的な見方 (20160329案)

- 1 科学の目的
科学の目的は、自然事象を説明できる法則や理論を構築していくこと
- 2 理科の各領域における特徴的な見方を考える前提：法則や理論の構築という視点から整理することが必要
- 表1 理科の各領域における特徴的な見方

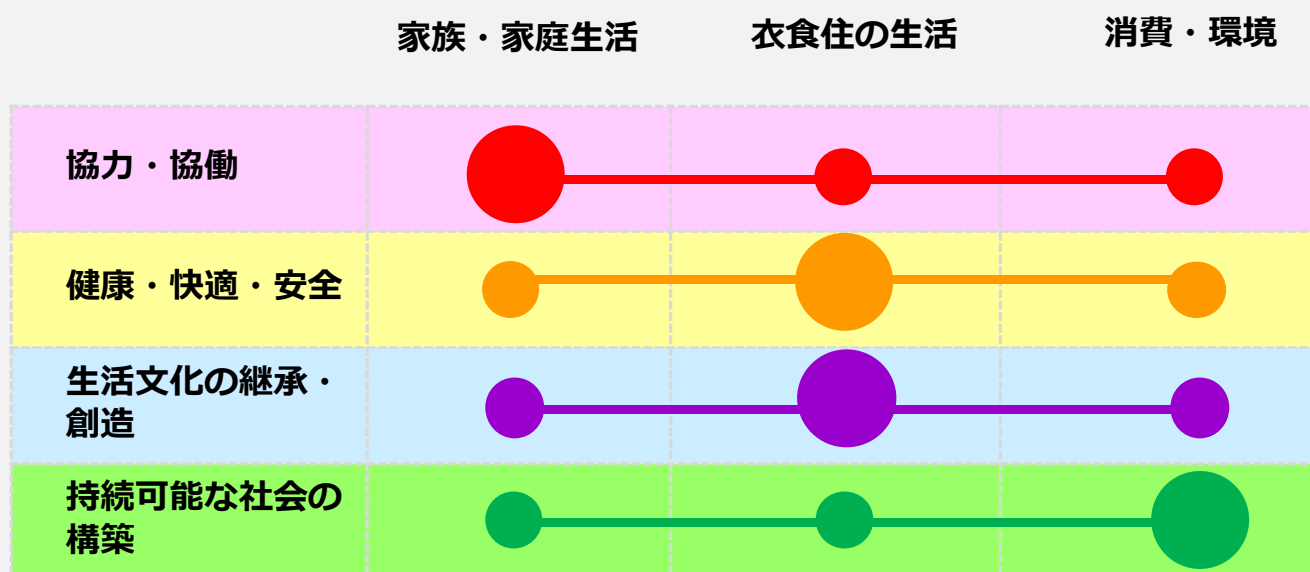
	領 域			
	エネルギー	粒 子	生 命	地 球
見 方 ・ 考 え 方	自然の事物・現象を主として量的・関係的な視点で捉える * 高等学校では、事象をより包括的・高次的に捉える	自然の事物・現象を主として質的・実体的な視点で捉える * 中学校から実体はあるが見えない（不可視）レベルの原子、分子レベルで事象を捉える * 高等学校では、事象をより包括的・高次的に捉える	生命に関する自然の事物・現象を主として多様性と共通性の視点で捉える * 「分子～細胞～個体～生態系レベル」の階層性があり、小・中・高と上がるにつれて扱う階層が広がる	地球や宇宙に関する自然の事物・現象を主として時間的・空間的な視点で捉える * 「身のまわり～地球～宇宙レベル」の階層性があり、小・中・高と上がるにつれて扱う階層が広がる
	学校段階の違い（内容の階層性の広がり）			
小 学 校	「見える（可視）レベル」	「物レベル」	「個体～生態系レベル」	「身のまわり（見える）レベル」
中 学 校	「見える（可視）～見えない（不可視）レベル」	「物～物質レベル」	「細胞～個体～生態系レベル」	「身のまわり（見える）～地球（地球周辺）レベル」
高 等 学 校	「見える（可視）～見えない（不可視）レベル」	「物質レベル」（マクロとミクロの視点）	「分子～細胞～個体～生態系レベル」	「身のまわり（見える）～地球（地球周辺）～宇宙レベル」

表2 理科の各領域における特徴的な見方の整理例

	領 域			
	エネルギー	粒 子	生 命	地 球
見方	自然の事物・現象を主として <u>量的・関係的な視点</u> で捉える	自然の事物・現象を主として <u>質的・実体的な視点</u> で捉える	生命に関する自然の事物・現象を主として <u>多様性と共通性の視点</u> で捉える	地球や宇宙に関する自然の事物・現象を主として <u>時間的・空間的な視点</u> で捉える
小学校 【事象を分節化しない】	自然の事物・現象を「見える（可視）レベル」において、主として <u>量的・関係的な視点</u> で捉える	自然の事物・現象を「物レベル」において、主として <u>質的・実体的な視点</u> で捉える	生命に関する自然の事物・現象を「 <u>個体～生態系レベル</u> 」において、主として <u>多様性と共通性の視点</u> で捉える	地球や宇宙に関する自然の事物・現象を「 <u>身のまわり（見える）レベル</u> 」において、主として <u>時間的・空間的な視点</u> で捉える
	例：豆電球の明るさについて、電池の数（量）や直列・並列つなぎの関係で捉える	例：形が変わっても重さは変わらないことから実体として存在することを捉える	例：昆虫や植物の成長や体のつくりについて、多様性と共通性の視点で捉える	例：土地のつくりや変化について、侵食・運搬・堆積の関係を時間的・空間的な視点で捉える
中学校 【事象を主に再現性が高いもの（エネルギー、粒子）と、主に再現性が低いもの（生命、地球）に分節化する】	自然の事物・現象を「見える（可視）レベル～見えない（不可視レベル）」において、主として <u>量的・関係的な視点</u> で捉える	自然の事物・現象を「物～物質レベル」において、主として <u>質的・実体的な視点</u> で捉える	生命に関する自然の事物・現象を「 <u>細胞～個体～生態系レベル</u> 」において、主として <u>多様性と共通性の視点</u> で捉える	地球や宇宙に関する自然の事物・現象を「 <u>身のまわり（見える）～地球（地球周辺）レベル</u> 」において、主として <u>時間的・空間的な視点</u> で捉える
	例：電気に関する現象について、電流、電圧、抵抗（量）の関係をオームの法則の関係で捉える	例：物質やその変化について、原子や分子を化学変化で実体的に捉える	例：植物や動物の体のつくりと働きについて、多様性と共通性の視点で捉える	例：地層の重なりについて、時間的・空間的な視点で捉える
高等学校 【事象をエネルギー、粒子、生命、地球に分節化する】	自然の事物・現象を「見える（可視）レベル～見えない（不可視レベル）」において、主として <u>量的・関係的な視点</u> で捉えるとともに、より包括的・高次的に捉える	自然の事物・現象を「物質レベル」において、主として <u>質的・実体的な視点</u> で捉えるとともに、より包括的・高次的に捉える	生命に関する自然の事物・現象を「 <u>分子～細胞～個体～生態系レベル</u> 」において、主として <u>多様性と共通性の視点</u> で捉える	地球や宇宙に関する自然の事物・現象を「 <u>身のまわり（見える）～地球（地球周辺）～宇宙レベル</u> 」において、主として <u>時間的・空間的な視点</u> で捉える
	例：電気抵抗に関する現象について、物質の違いから包括的・高次的に捉える	例：物質の構成粒子について、原子の構造や電子配列から包括的・高次的に捉える	例：生物と遺伝子について、多様性と共通性の視点で捉える	例：プレートの運動や火山活動と地震について、時間的・空間的な視点で捉える

○家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係わる生活事象について、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点から解決すべき問題を捉え、よりよい生活の実現に向けて考察すること。

自立し共に生きる生活の創造



※主として捉える見方・考え方については、大きい丸で示している。
取上げる内容や題材構成等により、どのような見方・考え方を重視するかは異なる。
また、学校段階によって扱うレベルも異なる。

技術・家庭科（技術分野）の見方や考え方の整理（たたき台）

技術分野の見方や考え方: 技術によって問題を解決する際の見方や考え方

	対象	見方	考え方
技術分野	生活や社会で利用されている技術について、	物質、生物、エネルギーや情報の特性に着目するとともに、問題を見出し、解決するに当たり、倫理観をもち、安全性、社会からの要求、環境負荷、費用等を踏まえつつ、	材料の生成・成形、エネルギーの変換・伝達、生物の育成環境、情報の処理手順等を評価し、最適なものとなるよう考察すること。
内容A	材料の技術について	材料を構成する物質の特性や材料の組織に着目するとともに、問題を見出し、解決するに当たり、倫理観をもち、使用時の安全性、社会からの要求、耐久性や機能、生産効率、環境への負荷、資源の有限性等を踏まえつつ	材料の生成方法を評価し、最適なものとなるよう考察すること。
	加工の技術について	構造、加工の特性に着目するとともに、問題を見出し、解決するに当たり、倫理観をもち、使用時の安全性、社会からの要求、耐久性や機能、生産効率、環境への負荷、資源の有限性等を踏まえつつ	材料の必要な形状・寸法への成形方法、材料の構造を評価し、最適なものとなるよう考察すること。
内容B	生物育成の技術について	育成する生物の成長、はたらき、生態の特性に着目するとともに、問題を見出し、解決するに当たり、倫理観をもち、使用時や消費する際の安全性、社会からの要求、生産のしくみ、環境への負荷、品質・収量等の効率面、生命倫理等を踏まえつつ	生物の育成環境の調節方法を評価し、最適なものとなるよう考察すること。
内容C	エネルギー変換の技術について	電気、運動、物質の流れ、熱の特性に着目するとともに、問題を見出し、解決するに当たり、倫理観をもち、使用時の安全性、社会からの要求、出力、環境への負荷、省エネルギー等を踏まえつつ	エネルギーの変換、伝達、利用する方法を評価し、最適なものとなるよう考察すること。
内容D	情報の技術について	情報の表現、記録、計算の特性に着目するとともに、問題を見出し、解決するに当たり、倫理観をもち、使用時の安全性、社会からの要求、情報の倫理やセキュリティ、活用、管理、システム等を踏まえつつ	情報のデジタル化や計算化による処理の方法を評価し、最適なものとなるよう考察すること。

高等学校情報科における「見方・考え方」

社会、産業、生活、自然等の種々の事象を情報とその結び付きとして把握し、見通しをもった試行錯誤と評価・改善とを重ねながら、問題の発見・解決に向けた情報技術の適切かつ効果的な活用(プログラミング、モデル化とシミュレーション、情報デザイン等)を探究する。

【世界をどのように捉えるか】

事象を抽象化して、情報とその結び付きとして把握

情報科の特徴

コンピュータや情報社会についてだけでなく、問題の発見・解決の過程や手法そのもの(とりわけ情報技術の活用によるもの)を学ぶ教科



【どのような枠組みで思考するか】

見通しをもった試行錯誤と評価・改善とを重ねながら、問題の発見・解決に向けた情報技術の適切かつ効果的な選択・活用(プログラミング、モデル化とシミュレーション、情報デザイン等)を探究

「効果的な活用」…解決が可能となるように問題を細分化することや、処理を最適化することなどを含め、コンピュータ等の特性をできる限り生かして問題の発見・解決ができるようにすること

【思考の基礎】

- ・情報の特性、情報技術の特性、問題発見・解決の手法等に関する科学的な理解
- ・情報モラルへの配慮や自らの情報活用を振り返り、評価・改善しようとする態度 等

体育・保健体育の特質に根ざした見方・考え方のイメージ（案）

体育 保健体育	○運動やスポーツについて、その意義や特性に着目しつつ、楽しさや喜びを見出すとともに体力を高め、公正、協力、責任、参画、共生、健康・安全といった視点を踏まえながら、自己の適性等に応じて「する・みる・支える・知る」等のスポーツとの多様なかかわり方について考察すること ○健康や安全の視点から情報を捉え、健康の保持増進と回復を目指して疾病等のリスクを減らしたり、生活の質を高めたりすることについて考察すること
------------	---

（見方や考え方については、各ワーキンググループでそれぞれ検討中）

小学校
中学校
年

社会

社会的事象の見方や考え方

位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象相互、立場相互の関係に着目して社会的事象を見出し、比較・分類したり総合したりして国民（人々の）生活と関連づけること

総合的な学習の時間

探究的な見方・考え方

実社会や実生活の中から問を見だし、よりよい課題解決に向けて、各教科等の特質に応じて育まれる見方や考え方を総合的に活用して、複数の事象を捉えて考えたり、一つの事象を多様な角度から捉えて考えたり、現実の文脈の中で物事を捉えて考えたり、自分自身の生き方と関連づけたりして捉えて考えたりしながら、物事の本質を探って見極めようとする事

理科

自然の事物・現象についての見方や考え方

自然の事物・現象について、主として量的・関係的、質的・実体的、多様性と共通性、時間的・空間的な視点で捉え、問題解決の過程を通して考えること

各教科
等

「見方や考え方」の成長

小学校
低学年

生活科

＜生活科の特質に応じて育まれる見方や考え方＞（案）

身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、比較、分類、関連づけ、工夫、試行、予測することなどを通して自分自身や自分の生活について考えること

総合的な学習の時間の「見方や考え方」(イメージ・案)

平成28年4月25日
生活・総合的な学習の時間WG
資料3-1

総合的な時間の 特質に応じて 育まれる 探究的な 見方や考え方 (イメージ・案)

高等学校	実社会や実生活の中から問を見だし、よりよい課題解決と新たな価値の創造に向けて、各教科等の特質に応じて育まれる見方や考え方を総合的に活用して、 <u>広範かつ複雑な事象を捉えて考えたり、一つの事象を多様な角度から捉えて考えたり、現実の複雑な文脈の中で物事を捉えて考えたり、自分自身の在り方生き方と関連づけたりして捉えて考えたりしながら、物事の本質を探ってみ極めようとする</u> こと
中学校	実社会や実生活の中から問を見だし、よりよい課題解決に向けて、各教科等の特質に応じて育まれる見方や考え方を総合的に活用して、 <u>広範な事象を捉えて考えたり、一つの事象を多様な角度から捉えて考えたり、現実の文脈の中で物事を捉えて考えたり、自分自身の生き方と関連づけたりして捉えて考えたりしながら、物事の本質を探ってみ極めようとする</u> こと
小学校	実社会や実生活の中から問を見だし、よりよい課題解決に向けて、各教科等の特質に応じて育まれる見方や考え方を総合的に活用して、 <u>複数の事象を捉えて考えたり、一つの事象を多様な角度から捉えて考えたり、現実の文脈の中で物事を捉えて考えたり、自分自身の生き方と関連づけたりして捉えて考えたりしながら、物事の本質を探ってみ極めようとする</u> こと

各教科等の特質に応じた見方や考え方を
総合的な学習の時間で総合的・統一的に活用

総合的な学習の時間において
各教科の見方や考え方を使うことで、
多様な文脈で使えるようになるなど、
各教科等の見方や考え方が成長し
各教科等の「深い学び」を実現

国語

言葉で表現したり、理解したりすることを通して、ものの見方や考え方を広げたり、深めたりすること、また、表現したり理解したりするときの言葉の働きや仕組みを捉えること。

算数

事象を数理的に捉え、論理的に考え、統合的・発展的に考察すること

生活

身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、比較、分類、関連づけ、工夫、試行、予測することなどを通して自分自身や自分の生活について考えること

音楽

音楽に対する感性を働かせて、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で音楽を捉え、音楽的な特徴と、イメージや感情、生活や社会、文化等との関わりについて音楽活動を通して考えること。

図画工作

感性や想像力等を働かせながら、形や色などの造形的な特徴を捉えるとともに自分のイメージをもつなどして、自分や他者との関わりや、生活、社会等との関係の中で、見たり創造的に考えたりすること。

体育

運動やスポーツについて、その意義や特性に着目しつつ楽しさや喜びを見出し、公正、協力、責任、参画、健康・安全といった視点を踏まえながら「する・みる・支える」等の豊かな関わり方について考察すること

道徳

様々な事象を道徳的諸価値との関わりで多面的・多角的に捉え、よりよい自己の生き方や在り方について考察すること

特別活動

集団や社会の形成者という視点から様々な諸問題を捉え、各教科等で培った見方や考え方を効果的に活用して、よりよい学級・学校生活や社会及び自己の実現に向けて考察し、実践すること。